



やなぎ美智子からののお便り

メールアドレス：kangoshi03@outlook.jp

やなぎ携帯：090-1508-7120

核兵器廃絶平和都市宣言 40周年記念イベント

ノーベル平和賞受賞 被団協 田中 熙巳氏 講演会

ノーベル平和賞受賞記念特別講演会 in いちかわ

1.15 2025 10:30~ (10:00開場) 定員 **400**
[水] 市川市文化会館 (こよみホール) 小ホール 大ホール1-1-5

1 平和講演
日本原水爆被害者団体協議会代表委員 田中 熙巳氏
ノーベル平和賞を受賞した被団協の代表委員による講演。当時、長崎で被爆した体験から受賞にいたるまでを語ります。

2 対談
田中 熙巳氏 × 田中 甲 市川市川
今を生きる皆さんへ伝えたい思いについて

ヒロシマ・ナガサキ原爆パネル展 被団協出版の「原爆と人間」パネルの展示を行います。会場：文化会館 小ホール入口

1月15日、市川市文化会館で、日本被爆者団体協議会（日本被団協）代表委員の田中熙巳氏の講演会が行われ、400人定員のホールは満席となりました。

田中氏は92才です。13才の時に長崎市で被爆し親族5人を亡くされました。被団協事務局長を20年以上努め、被爆者支援と、核兵器廃絶を訴え続けてきました。

田中氏は「核抑止タブーを打ち破ること、核兵器をなくすために、世界中のみなさんで話し合い、先ずは、自国の政府や自治体に働きかけて頂きたい。ノーベル平和賞受賞式での20分間のスピーチ、ノーベル平和賞選考委員長のフリードネス氏の発言をあらためて聞いていただきたい」と強調しました。

講演後、田中市長との対談も行われました。

ノーベル平和賞受賞記念 特別講演会 in いちかわ 市川市主催

核兵器廃絶平和都市宣言 40周年記念イベント



革新懇話会市川の定例宣伝行動の参加者のみなさんと

1月19日、市川駅北口で、革新懇話会市川（市川革新懇）の毎月第3日曜日の13時から行われている定例宣伝行動に参加しました。

45年前、平和と政治革新を求める全国的な運動の中で、市川革新懇は結成されました。

参加者はマイクリレーで「日本政府に核兵器禁止条約への参加・批准を求める署名」を呼びかけました。「今こそ！平和・くらし・いのちを大切に！政治を！」の横断幕を掲げ「市川市に9条の碑をつくる会」と共に運動を広げています。

無料法律相談 2月18日（火） 3月11日（火）

相談時間は一人30分 相談を希望される方は事前予約が必要です。

場所・時間は予約時にお知らせします。

市役所共産党控室か、やなぎ美智子にご連絡ください。

電話：047-334-1111（内線 18220）



市川市消防出初式が開催されました



負傷者を客席からアリーナへ救助する訓練を実施

1月11日、新春恒例の市川市消防出初式が国府台市民体育館で開催され、消防職員や消防団員、協力団体や一般参加者の約400人が参加しました。とび職組合の7人が「木遣り」を披露しました。テノール歌手の佐々木洋平さんが市川市消防音楽隊のオリジナル曲「希望の音」を歌いました。現場に向かう救急車や消防車のサイレンに託す思いを作詞したものです。



「希望の音」より

想像してほしい

サイレンの音が向かう先のこと

あなたが聞くその音は、

助けを待つ人の希望の音

あなたが譲ったその道は、

助けを待つ人へつながる希望の道

市川市役所本庁舎の1階のすべての玄関ドアと、1階の総合窓口付近に「AED設置しています 設置場所：1階守衛室」のステッカー表示が実現 (左写真)



昨年12月定例市議会の一般質問で「公共施設のAEDについて」取り上げました。市役所のAEDがどこに設置されているのか分かりにくいので、誰でも、すぐにわかるような表示を求めました。

「AEDが設置されているのが当たり前」になってきているのですが、「使えて当たり前」になっていません。どこに設置されているのか分からなければ、いざという時に使うことは出来ません。多くの市民や関係者が来庁する市役所など、公共施設のAEDの設置場所の表示は重要です。

皆さんも、来庁の際には、表示をご確認ください。次のステップは「みんなが使えるようになること」です。

1月17日、千葉県庁にて、日本共産党千葉県委員会・県議団と日本共産党市川市議団・浦安市議団他は「新湾岸道路の建設を中止し、既存道路の整備促進を求め、要望書」を提出しました。

「三番瀬海域を狭める市川の人工干潟造成に許可を与えないこと」も要望しました。(市川市は現時点で県に許可申請をしていません)



要望書を手渡す丸山県議、浅野県議と関係する市の共産党市議会議員

市川市と市原市を結ぶ、新湾岸道路計画は、貴重な自然が残る三番瀬を通ることが予想されます。

交通渋滞の解消を計画の目的にあげていますが、道路が完成したとしても利用開始は早くても20〜30年後です。「今、やるべきは既存道路改良での渋滞解消と、生活道路の安全対策です」と要望しました。

環境を破壊する新湾岸道路の建設計画は中止を!!